

【総合福祉センターの移転について】

現在、総合福祉センターの移転先として京王多摩川駅周辺が有力候補に挙がっているが、洪水ハザードマップでは、2階の軒下まで浸水する地域。市の利用者団体からの聞き取り調査では、多摩川地域への移転に対する不安の声も確認されている。

現在の総合福祉センターは、台風19号で要介護者、要支援者の避難場所として大きな役割を果たした。ハザードマップ上で浸水地域となっている場所に、避難所としての機能を果たすべき福祉施設を移転することの是非を、立ち止まって再検討すべき。

<答弁>

総合福祉センターは、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応、地区計画で敷地南側の区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していく必要があり、センター機能を現敷地で維持していくことが困難。さらに、高齢者や障害者の機能回復訓練や相談事業等のサービスは建替え時も継続することが必要不可欠。

サービス提供を継続しながら更新するには、施設機能の移転や仮設施設の整備が必要だが、調布駅周辺では整備用地の確保は困難。また、仮設施設の整備及び運用は、大幅なコスト増。こうした課題を踏まえて、平成30年度に策定した公共施設見直し方針では、民間活力の活用を視野に入れた施設整備手法や移転候補地について多角的に検討、推進していくことにしている。

現在、関係団体や利用団体、利用者からの意見聴取を行いながら、総合福祉センターの整備に関する市の考え方の整理しており、令和2年度の上半期を目途として、取りまとめる予定。

今後の施設機能については、現時点では、休日・夜間診療等の拠点機能や、高齢者の健康づくり・生きがいづくりに資する機能など、周辺福祉施設機能の集約・複合化についても検討。移転先候補については、早期に確保する必要あり。京王多摩川駅周辺における交通利便性の高い民間開発における事業床の確保を含め、移転先候補の選定に向けて、関係者との協議・調整を進める。

京王多摩川駅周辺地区への移転検討に当たっては、浸水時を想定した垂直避難や総合福祉センター機能の維持に必要な設えなどの災害への備えについても、事業者と連携しつつ必要な対応を協議・調整していく。